

おねがい

○目標となる資質・能力

思いや考えの表現力、コミュニケーション能力、相談・支援を求める力

○指導のねらい

友達にお願いをする場面のロールプレイをとおして、相手のことを思いやった適切な表現力を育むとともに、友達と協力しようとする態度を育む

○教育課程、実施時期

特別活動

○留意点など

小学校中学年という発達段階であることから、ロールプレイで適切に相手の気持ちを理解するための支援として、ティームティーチング (TT) で行うことが望ましい

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 友達にお願いしたくても、うまくお願いできなかった経験を思い出す	・お願いできなかった経験やその理由を発表させる
	「おねがい」してみよう	
展開 35分	2 お願いの仕方を理解する お願いする時のポイント ① お願いすることを伝える ② お願いする内容と理由を伝える ③ お礼を言う 3 お願いをする練習を行う 4 お願いを断られた場面を考える	・「荷物を運んでほしい」場面を授業者がロールプレイする ・T2 と授業を実施する場合は、T1 とT2 がロールプレイを行い、その様子から適切なお願いの仕方を考えさせる (TT で授業を実施しない場合は、1人の児童とT1で行う) ・ペアで交互に行わせる ・時間があれば、その他の状況を取り上げて練習させる。 ・お願いをした相手の都合を考えさせる。
まとめ 5分	5 本時の学習を振り返り、感想を書く	・困った時、1人で考え、解決することも大切だが、1人で解決できないことに関しては、お願いすることも大切だと理解させる ・良い例と悪い例のロールプレイを行ってみて、それぞれどんな気持ちになったか、振り返らせる

参考

○「友達にお願いしたくても、うまくお願いできなかった経験を思い出す」について

導入では、友達にお願いしたくても「断られたらどうしよう」等と思う結果、うまく頼むことができずに困ってしまった経験を発表させる。「(荷物が重くて持てない) 荷物を一緒に運んでほしい」「(行き先の場所が分からない) 場所を教えてほしい」等、児童の生活上の経験と結びつけながらイメージを引き出すように心掛ける。その際、「恥ずかしかったから」「うまくお願いできないから」等、お願いすることができなかった理由も発表させるようにする。

○『荷物を運んでほしい』場面をロールプレイする』について

小学校中学年という発達段階から、ロールプレイ（役割演技）をとおして気持ちを理解することがうまくできない児童が少なくないと考えられる。そこで、まず授業者が悪い例と良い例を示し、どこが悪くてどこが良いのかについて児童から発表させることから始める。児童に行わせる時には、T2と協力して丁寧に適切な支援を行うようにする。

良い例

A 「おねがいがあるのだけど。」

A 「荷物が重すぎて持てないから、一緒に持ってくれないかなあ。」

B 「いいよ。一緒に持とう。」

A 「ありがとう。助かるよ。」

悪い例

A 「荷物持って。」

B （無言で手伝う）

A （無視）

○「お願いを断られた場面を考える」について

児童がお願いを断られた場合、「あきらめる」や「もう一度頼む」等と考えられる。そこで、お願いをした相手には都合があり、適切にお願いしても相手に断られる場合もあることを理解させた上で、他の人に頼む等の次の行動について考えさせる。また、お願いの仕方が悪いと相手は断りたくなることもあることを伝え、ペアで交互に練習を行う際には、お願いをされた児童にどんな気持ちになったかを発表させる等、お互いが気持ちよく協力できるようなお願いの仕方を児童に確認させながら授業を展開する。

○授業後の展開について

友達に適切にお願いしようとする態度を育むことをねらいとしているが、一方で、適切に「断る方法」も人間関係の構築に必要な力である。また、小学校高学年になるにつれて、喫煙、飲酒等の不適切な勧誘をされる可能性が出てくることも考えられる。そこで、お願いされた児童の立場になって、都合が悪い時等の適切な断り方の学習も合わせて実施できるとよい。